

第1学年 生活科学習指導案

橋本市立紀見小学校

指導者 市平 愛

1 単元名

「たのしもう あき」

2 単元目標

・秋の公園で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、秋の自然や、夏との違いや変化に気づいたり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができる。

3 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・夏から秋になって自然の様子が変化していることに気づいている。 ・身近な自然を利用して遊びをつくり出す面白さに気づき、それらを伝え合い、交流することの楽しさに気づいている。	・四季の変化や、季節によって生活の様子が変わることについて自分なりに考えたり、身近な自然のものを利用した遊びを工夫したりして、それを表現している。	・秋の自然や、季節の変化に関心を持ち、秋の自然を利用して、みんなで楽しく遊んだり、それらを振り返って伝え合ったりして、楽しく生活しようとしている。

4 教材について

本単元では、秋見つけを通して、身近な公園や校庭の自然の中で、春や夏の様子と比べながら、変化を感じ取らせ、自然の美しさ、不思議さ、面白さなどの自然のすばらしさに気づくことができる。また、自然を利用した遊びは、児童が素直に関わっていくことができる活動である。また、活動や体験をして自然を大切に作る心も育てることができる。児童が身近な自然と関わり合い、児童の発想や工夫が生かされ、遊びや生活を豊かにすることができる。

5 児童について

本学級の子どもたちは、外で遊ぶことが大好きで、身近な自然に触れる機会も多く、登校途中や校庭で見つけた草花や木の実などを教室に持ってきたり、家の近くで見つけた生き物の話をしたりと自然と積極的に関わることができる。これまで、春には校庭を散策し、身近な草花や生き物を見つけたり、遠足では杉村公園に行き、自然に触れたり、公園で遊んだりできた。また、虫を捕まえたり、水遊びや土遊びをしたりして四季の変化を感じる活動をしてきた。活動を通して自然の不思議さや面白さ、四季の変化によって自分たちの生活が変化していることに気づく児童は限られている。気づいたことを言葉や絵などで表現することは、アサガオを育てた際に少しずつできるようになってきている。

6 指導について

自分たちの身近には、遊具だけでなくいろいろな植物や生き物が生息している杉村公園がある。すぐ隣にある紀見小学校に通う本校児童には、その公園をもっと身近に感じ、秋見つけを通して自然の中で遊びながら、季節の変化を感じ取らせたい。秋の公園の自然を感じ、友だちと関わりながら、落ち葉や木の実などの秋の自然を生かして遊びを考えたり、発想を生かしたりして活動させたい。身近にある杉村公園で秋見つけをし、春や夏との違いを見つけ、四季の変化を感じさせるようにしたい。また、見つけた秋の自然物を持ち帰り、それを利用した遊びを考えさせる。見つけた秋の自然物を詳しく調べてカードやクイズなどを作り、友だちと紹介しあうことで、気づきを深めたい。朝顔の観察でできるようになってきた観察する力を生かしたり、発想豊かに自然物を使った遊びを考えさせたりしたい。

7 ESD の観点

・身につけさせたい ESD の視点

多様性：木の実や葉っぱがよく見るといろいろとあることに気づく。

・養いたい価値観

自然環境と自分との関わりを感じることができる。

・養いたい能力

コミュニケーション能力：園児と交流することでふれあうことができる。

8 単元の展開（全 14 時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価
3	○夏からかわったところを見つけよう。 ・校庭や杉村公園へ秋見つけに行く。	春や夏の様子と比べながら校庭や杉村公園の様子の変化に気づかせる。	ア
2	○見つけた秋を紹介しよう。 ・木の実や落ち葉などのことを絵や文でかき、友だちに紹介する。	発見した秋を絵や文で表現し、相手にわかりやすく発表させる。 友だちの発表を聞いて、感じたことや、おもったことを伝えさせる。	ウ
6	○作って見つけて楽しもう。 ・木の実や落ち葉などでどんなものが作れるか考える。 ・作ったものや発見したものを紹介する準備をする。	木の実や落ち葉など、秋の自然物を使って、遊ぶものや飾るもの、生活に役立つものなどを工夫して作ったり、発表する準備をさせる。	イ ウ
3	○みんなで秋を楽しもう。 ・作ったものを紹介したり、みんなで遊んだりして、秋を楽しむ。	作ったもので遊んだり、発見したことを紹介したり、生活に役立つものの作り方を紹介させる。 園児との交流会で、松ぼっくりを使ったけん玉づくりを一緒に行う。	ア イ